



特定非営利活動法人



<http://nepai-mika.jp>

平成28年 春号 NO.56

ネパール・ミカの会

平成28年4月20日発行 194-0035 東京都町田市忠生2-5-36 tel042-791-0602



「20周年を迎え」

NPO法人ネパール・ミカの会

理事長 齋藤 謹也

平成28年春を迎え、ネパール・ミカの会の動きも啓蟄の如く、モゾモゾと動き出して来ました。3月には第18次教育支援の旅を行い、スリランカ・ネパールに行き交り交流を行い、元気な理事や会員の方々が訪問したことにより、特にルンビニの支援校関係者に大きな安心と信頼を与えて下さいました。訪ね、顔を会わずだけでも大きな支援のなるんですね。

今年は、当会の設立20周年と言う事で、記念式典を行う事を決定しております。どうか会員の方々のみでなく、全てのお世話になった方々をお呼びして、改めて交流、親睦の機会を設けたいと思っております。

ところで、驚くほどの実績をあげたネパール・ミカの会。子供支援に的を絞って、校舎、図書を中心に支援を続けてまいりました。継続が力となり、ローカルのボランティアの会としては大きな力を発揮したものと自賛しているところです。

しかしながらネパール大地震を契機に少し息切れをして来たように思われます。

さあ、これからどう運営して行くべきかを考え、かつ、次代の者への引き継ぎが可能かどうか、壁にぶつかっているように思われます。

以前から多かった出稼ぎ、それが日本の大久保あたりでネパール産の売り物として盛り上がりを見せています。ネパールの労働力、建築資材不足もあり、校舎建設に不安をいだかせ、図書支援のリスト作成などは出来なかったと言う返事が来るようになり、現地担当者の意識変化も起きています。

そして、これからのネパール支援は如何にあるべきか、大きな曲がり角に立っているように思えます。

ボランティアの醍醐味を味わった20年。つつい高齢化を理由に弁解しがちですが「今から・今から」油断する事無く、灯明を少しでも灯したいものです。

「スリランカからネパールへ」

副理事長 今村 旭

今年も18次教育支援の旅が行われ、会員8名が参加した。例年と異なり、最初にスリランカに3泊し、世界遺産の寺院や、有名なシーギリヤ・ロックの登頂も経験した。26年間の内戦を経たとはとても思えない平和な国家となっていた。

街並みはネパールに似ているが街道の両側には、どこまでも緑が大変豊かで、なかでもバナナやココナッツ椰子の木々が、至る所に見られ、目には優しい景観の国土であった。

街道に面した家々の庭にはブーゲンビリアやハイビスカスが咲き、南国の風情が満ち溢れ、以前の旅のインド東部とは大きな違いを感じた。全土が緑に覆われ、心地よい空気感で人々もどこかゆったりと感じられた。

平和寺訪問の際も、渋滞で時間が遅くなったにも関わらず、僧侶は快く受け入れてくださり、祈りの読経をしてくださった。そのうえ、「旅の安全を」「各自家に帰るまで外さないように」と、お守りの糸を我々全員に施してくださいました。

僧侶と会員が一本の糸を握り、全員で円を作り、車座になり、右手首に硬く糸の輪を、お経を上げながら結び付けてくれた。このお守りのお蔭で無事帰国できたが、外すに忍びず、白い糸は今も右手首に健在である。寺のもてなしを受け、おいしいマンゴーやバナナなどの南国フルーツや紅茶をいただき、しばし疲れも忘れ、大いにくつろいだ。

ツアーのガイド氏によると、国民は公立教育と一般の医療には個人の負担は無く、すべて無料で、私立学校と一部の医療費には負担があるそうだ。それなら税金も高額では？との質問に、それほどではない、との答え。道理で市民にゆとりを感ずるわけだ。以前の争いを乗り越えて平和な仏教国なのだとなつてきた。ネパールに行くのに遠回りしたが、スリランカに行つてよかったと思った。

旅の4日目からネパール入りだった。早朝からの移動で連日ホテルが変わるので、少々疲れた。3月5日には、いよいよ本番のネパール入国。ありがたいことに、おなじみのスリジャナさんの迎いで、すべてスムーズにすすみ、親しんだヴァイシャリホテルに到着、やっと一息ついた。このホテルはいつも部屋の鍵のことで一苦労がつきものだ。さあ大変！トラブル発生。後半のお話はまた次号で…。



ネパール大地震慰霊祭・ボダナート 2016.03.09



「創立 20 周年を迎える支援の旅」

副理事長 大谷 安宏

いつも思うことだが旅に出掛けるまではスケジュールに引き摺られ、いざ旅に出掛ければスケジュールを引き摺って過ごすように思う。しかし今回の旅はスリランカ経由ネパール入りの連泊なしのハードな旅に引き摺られながらも多くの出会いと貴重な体験の有意義な旅であった。

一度は訪れたかったスリランカでは荘厳なキャンディーの仏歯寺、幽玄なダンブッラの石窟寺院、そして喘ぎながら励ましあい登頂を果たしたシーギリヤロックの三ヶ所の世界遺産を巡り、3月お会いした現地平和寺ソーマシリ師の寺院を詣で旅の安全祈願と茶果の接待を頂いた。師から教わった「アューボアン=こんにちは さようなら」「ラーサイ=美味しい」の二つの言葉はスリランカ滞在中に何度もこやかな会釈に接しられ嬉しかった。

カトマンドゥ空港では期待通りのスリジャナさんの笑顔の出向え、そして久しぶりのラマさんと並んで歩くと「20周年ですねえ。以前は良くやりましたねえ、同時に3校の建設をしたり」「ルンビニ、シリシリラム、グルワニマイ校とね」と答えながらルンビニの各校が震災被害のないことを願いつつ、なるべく多くの校舎を視察したいと思った。

霧のためバイラワ便は2時間余りの遅れでサラソティー校の生徒たちを待たせたが、間もなくの雨期に備えて床、内装、外装の未完の校舎の仮引渡し式、成瀬中学からの布袋、運動具、ティナウ校での運動具、そしてマズワニ高校でのソーラーランタン寄贈に大喜び。

建設支援校の全てを訪れることは出来なかったが、マズワニ校、シリシリラム、アディアリ、グルワニマイ校は震災の被害はなかったことが確認できたことに安堵した。

グルワニマイ校、初の二階建て校舎マズワニ高校の建設場所選定にあたり、学校側の樹の伐採提案を変更の建設であったが、残った双方の幹に触れより遅く、温もりさえ感じた。

震災の惨状はまだ各所に残り仮設のテント暮らしも多い中、2校の支援校に運動具を届け、会からの緊急支援の成果を確認することが出来た。

ドーム上部の目玉の塔も崩壊修復中のボダナートで4人の僧侶を迎えて大震災による多くの犠牲者の法要を執り行った。修復に何百名のボランティアがレンガを手送りする光景に慣れ親しんだ貴重な遺産の早い修復を願う人々の心意気を感じた。

ここでドマさんと二人の娘さんと落合う。姉のヤンチェンちゃんがボダナートのスケッチを始める。何処かでみたスケッチブックだと思つくと、ラマさんが「私には描けなかったけど娘たちがと持ってきた」と。もう何年になるだろう。毎回大倉山作品展に来場のラマさんに「来年は一枚ここに展示を」と水彩道具とスケッチブックを渡したが、ついぞ作品は届かずであったが、今回娘さんたちに引き継がれていることのわざわざの心配りが嬉しかった。

食事中にもヤンチェンちゃん、チョインちゃん二人は熱心に鳥と海の生物を描き続けた作品を記念に頂いてきた。

今回の旅もゴビンダ家族、震災支援グループの皆さん、モティーさん、ホテルに働くマズワニ高校卒業生など多くの方々と親しく触れ合えた有意義な旅であった。

創立20周年を迎えるに“ゆっくりと ささやかに 心をこめて 手から手へ”をモットーにこれからの教育支援活動がより活発に効果的に進められることを強く期待します。

20年間の活動はラマさんの尽力のお陰です。今後も宜しくお願ひします。



「第18次教育支援の旅のスリランカ編」

中野 千恵子

3月2日羽田空港に8時45分集合だったが皆さん、8時には集合し、キャセイパシフィック航空のカウンターで手続きをし、予定通りにゴビンダさんを含めて9人で出発しました。曇り空だったので残念ながら富士山を見ることが出来なかったが途中から晴れてきて煙をだしている枚島は良く見えました。香港には予定通り到着。5時間の乗継滞在時間は長いと思ったが、一人旅と違い楽に過ごすことが出来た。

スリランカのコロombo空港に11過ぎに到着。スリランカの係員が「なかのけい、なかのけい」と言っていたが、まさか私の事とは思わず日本から同姓の方が来たのだ。と思っていた。ところが私の荷物が出てこない。香港にあり、一日遅れて来るようだ。まいったなあ・・・その様なことがありホテルに着いたのが深夜1時を回っていた。

メンバーには申し訳なかったとつくづく思った。パジャマもなかったが、同室の浜崎さんに貸してもらい化粧品も貸して頂いた。本当に助かった。手荷物で下着一式と靴下とTシャツを持っていたのでそれも助かった。翌日、ブラウス、Tシャツを購入何とか荷物が届くまで一息ついた。

3日は7時半に朝食をとり、9時キャンディーにむけ出発した。12時に一つ目の世界遺産、仏歯寺に到着した。このお寺に拝観に来た生徒達は皆、真っ白な服装だ。私達も上着は白着用にした。靴を脱ぎ、紫いろの花を持ち、仏歯が祭っている所で花をささげた。外は大変暑いがお寺の中は気持ちよい。夜の拝観を待つ人々が回りに座っている。八月のペラペラ祭りは着飾った象達が練り歩きすごいお祭りのようだ。また、バスで走る。

3時間後、二つ目の世界遺産ダンブッラに到着した。今度は石窟寺院観光。金色の大きな仏像があり、その脇の道をひたすら登っていく。途中に猿たちが出迎えてくれ、階段などの道を休み休み登っていく。薄いピンクの花をつけた木が綺麗だ。初めて見た木だ。



頂上に着き、靴を脱ぎ、石窟寺観光。石の道は足が暑い私はお腹が痛く、観光どころではなくなった。トイレの場所まで係員に連れて行っていただく事に。ところが鍵がかかっていて開かない。係員はまた、元の場所に取りに行った。なかなか戻ってこないし、お腹はどんどん痛くなるしまいでしまった。鍵が開き、階段を下りて行ったところにトイレがありお借りした。

その後は天井絵や横になった仏像の石窟寺を見て早めに下に降り皆が戻ってくるのを待った。

買い物済ませ、シーギリヤに向かった。もう、6時過ぎだ。真っ暗な木々の街道を進む。やっと7時にホテル、シーギリヤ着いた。翌日、ホテルの中庭でシーギリヤロックを見ることが出来た。これから、今日、登る山だ。

6時15分食事、6時50分出発。ジャングルの中に建つ、シーギリヤロックの麓に行き、お手伝いの人を数人頼みゆっくり登りはじめ。階段や断崖絶壁を螺旋階段で登ると美女の壁画があった。とても素晴らしいが今は写真禁止、残念。

やがて、ライオンの入り口。また、急な階段をのぼり王宮跡の場に着いた。回りのジャングルが見え気分最高。何故、こんな所に王宮を建てたのか不思議。まっすぐな道があったり、蛇がいるようにクネクネな道や王様が石の椅子に座っていても暑くならないように水が流れるようになっているとか良く考えられている。

写真を撮ったり、楽しんだ後、下に降りた。降りる時はあつと言う間に着いた。ホテルに戻り、移動の準備。私の荷物が届いていたので、やっと、一安心です。今日はネコンボの平和寺に向け出発。途中で紅茶、ポストカードを買った。道は大きい木を切って道路を広げているらしい。動かない。2時間遅れの様子。ココナツの林が多い。途中でココナツ水を飲み、又、平和寺に向けバスを走らせる。暗くなる前にやっと平和寺に到着。お寺の皆様を待たせてしまった。街中なのに素晴らしいお寺だ。旅行の無事を祈って一人づつミサンガを右手に結わえて下さった。お茶もご馳走になり本まで頂き、お寺を後にした。

すぐに泊まるホテル、ラマダ・カトヤナケに着いた。明日は早朝出発するので早々に夕食を済ませ寝た。翌日、まだ、暗いうちにバスを走らせ無事に空港到着。忙しかったが良いスリランカの旅だった。インドのムンバイ経由でカトマンズに行った。この旅ではカトマンズでも私のスーツケースは出てくるのは遅かったりで皆様には本当に迷惑かけました。添乗員のゴビンダさんも一緒だったので助かりました。ありがとうございました。

「スリランカ・ネパール9日間の旅」

濱崎 ヤス江

3月2日、会員8名、添乗してもらおうゴビンダさんの9名で羽田を出発しました。スリランカは予備知識は全く無く、いいところとの話だけで期待して行きました。遠くて大変でしたが、話の通り素晴らしい国でした。一帯は緑の樹木に覆われ、道の両側はココナツの木、色とりどりの美しい花が咲いていて、南の国の楽園でした。花好きの私にはたまりません。

2日間の滞在で3ヶ所の世界遺産を観光しました。ダンブッラ石窟寺院の石碑の群像。180mの巨石、シーギリヤロックの登頂もはたし、満足しました。

2月築田寺の昼食会でお会いしたソーマシリ師のお寺、平和寺も訪れ、お祈りをさせて頂きました。ひと時の安らぎの時間でした。4日目ネパール・カトマンズ着。空港でスリジャナさん・ラマさんが出迎えてくれました。二人に会えてほっとです。

ルンビニの学校支援は日程通りサラソティ校の飯の引き渡し。グルマニマイ校の高校生にソーラーランタンのプレゼント。これは是非大事につかってほしいものです。

他休校日の校舎を数校見て回りました。少ない時間でしたがゆっくり、のんびり出来たルンビニ滞在了。でした。

カトマンズではパドマカニヤ校、ゴビンダさん関連の被災校。被害が大きく、全・半壊した近郊の街。ドーム状の仮設住宅、ガソリン待ちの車列などなど、ひどい現状を見て来ました。復旧にどれ程の時間がかかるのでしょうか。

ボダナートの仏塔は修理の為に頭部が無くなっていました。その塔の中で震災で亡くなられた方々の慰霊のお祈りをさせてもらいました。

4名のお坊さんに来て頂き、工事中の騒然とした中、場所の確保、テントの用意などラマさんの配慮に感謝でした。

滞在中はゴビンダさんの家での昼食会の招待、ラマさん一家との楽しい食事、スリジャナさん、モティーさん他ボランティアの方々との夕食会と、うれしい出会いが沢山ありました。皆さん本当にありがとうございました。



「第18次ネパール教育支援の旅所感」

西澤 忠

大震災後初めてのネパール入りでしたが、今回も子供たちの輝いた瞳に触れる事ができ、また短時間ではあるが交流できて楽しかった。しかし至るところの未だ生々しい大きな傷跡に触れたり、テント村を見るにつけ、行政側の対応の遅れは聞きしに勝るものがあると思った。一方私たちのほんの小さな力が、子供たちのお役に立てたのだな、という事も実感でき嬉しかった。また犠牲者のもとより、被災者には本当にお気の毒だが、持ち前の明るさとパワーでこの難局に立ち向かい、少しずつでも自立されるよう望みたい。

ルンビニ地区学校の状況については、報告書に述べたとおりであるが、校舎を建築してから15年以上経過している建物もあり、耐震調査・診断をしながらより安全・安心な教室にするため補修などに注力すべきである。

今回、行って、見て、触れて、聞いて、感じて、それから、考える、ことの大切さを再認識した。

被災したボダナートを修復するために、大変多くの人々がレンガを手渡しリレーするのを見てすごいな～と思いました。糸井重里の言う自己表現とは遠く離れたところで汗を流して、これがボランティアなんだと思い知らされました。

日本でも東日本大震災はもとより、次々と起こっている、或いはこれから起こり得るかもしれない災害に対し、ネパール・ミカの会ももう少しこちらにも目を向けていく必要があるのではなからうか。何か出来ることがあるような気がする。こんなことを機中で思いながら帰国した。

カトマンズを離れる日に、ラマさん家族と昼食を共にした。ドマさんも元気であった。ヤンチェンちゃん（7歳）、チョインちゃん（5歳）は大きくなっていて、学校でも成績優秀で、ヤンチェンちゃんは学年一番で奨学金を受けているとのこと。その場で躍動ある絵を描いて大谷さんと私にプレゼントしてくれた。ルンビニの子供たちにも絵で生活や夢を描いて欲しいなと思っているが、未だ実現していない。



「スリランカからネパールへ」

松浦 陽子

シーギリヤへの街道沿いにはココナツの林が延々と続き、三毛作だと言う黄金色に実った稲作の田んぼも目立ちました。「スリランカはやはり南国なんだなあ」と感じる風景です。インドのすぐそばで赤道に近い島なので、「暑いんだろうなあ！」と覚悟をしてきたんですが、思っていた程暑い暑さではなく、湿度もそれほど高くはなかったのが印象的でした。途中、皆が「どんな味かな？」と興味深々だったココナツのジュースを街道沿いの家に立ち寄って飲ませてもらいました。冷えてはいなかったのでも生ぬるい感じはありましたが、素朴ですっきりした味でした。スリランカの街道は真っ直ぐな一本道で、横道や支道が少なく、信号もないので、ある意味返ってスムーズに流れているのですが、ちょっと道路工事などが入ると、交通整理をする人もいないので、途端に渋滞になってしまい、延々と待たされてしまいます。そこら辺は改善して欲しいところでした。

シーギリヤに向かう前に寄った世界遺産の街キャンデーでも沢山見かけましたが、スリランカの学生は皆白い制服を着てました。スリランカは仏教国で、国民の70%が仏教徒なのだとか。仏様にお参りする時は白い衣装を身にまとうのが習わしなのです。私達も上だけ白い服を準備して行ったので、世界遺産の仏歯寺にお参りする時には皆さんにならって白い衣装を着て靴と靴下を脱ぎ、かぐわしいお花を供えてお祈りしました。そして羨ましかったことは、スリランカではハイスクールまで教育費が無料なのと、医療費もほとんどかからないと云う事です。

教育費も医療費も凄く高い日本とは何という違いでしょう！恵まれた国だということに驚かされました。そして何といっても圧巻はシーギリヤロックという絶壁の岩山に、9人のメンバー全員で登れたことです。何人かはサポートしてくれる若者の助けを受けましたが、全員で頂上に辿り着けてとても嬉しかったです。一番の思い出になりました。

4日目の午後ネパールのカトマンドゥに着きました。去年大地震が発生して以来、緊急募金をして、カトマンドゥ近郊の学校に、すぐに必要な物を支援致しました。今回の支援の旅でそれらの学校を見て回りたいという思いがありました。まずは長年支援を続けているルンビニの学校巡りからです。最初の訪問校は建設が3年越しになってしまったサランティ校です。生徒達が校庭の入り口にマリーゴールドの花でWELCOMEの文字を書いて、歓迎してくれ、とても感激しました。仮の贈呈式を行い、布袋や鉛筆などのプレゼントを上げました。完成までもう少しです。

7日目に地震被害の大きかったバルボダ校を訪問し、校舎の被害状況など視察し、仮校舎に行っていた先生や生徒達と挨拶を交わし、スポーツ用品などを配りました。生徒達が元気だったのが良かったです。帰国の前日、カトマンドゥのボダナートで、4人の僧侶をお呼びして大地震の慰霊祭をしました。犠牲者の御冥福と被災者の一日も早い復興を祈りました。

昨年ネパールを襲った大地震から1年近くが経った。あれからずっと心にかけていたネパールにやっと行くことが出来た。地震直後からのインド国境の政治的な封鎖により、燃料が手に入りにくい人々の生活も気がかりだった。

今回の旅では、資材が手に入らないなど様々な事情で3年かかって漸く完成間近になったサランティ校の仮贈呈式や、気がかりだったラマさんご家族や友人に会えたこと等うれしいことが沢山あったが、ここでは震災のことを書こうと思う。

ネパールに到着して、空港からタメル地区への大通りを車で走っているだけでは、地震の被害はそれほど感じられなかったが、通り沿いの広場には、住めなくなった村を離れて仮設テント（どのテントも、あちこち擦り切れ、ぼろきれのような布で応急手当がしてあったが）で暮らしている大勢の人々の姿があった。まだ肌寒いカトマンドゥだが、ここで生活している子どもたちの笑顔とたくましさ少しホッとした。まず元気がいい。近寄ってきて話しかけ、よく笑う。ポリタンの水を両手で運ぶ女の子。片方のポリタンを持ってあげると、結構重い。近くのテントかと思ったら、広場の端の方までかなり歩いた。ありがとうと笑顔で手を振ってくれた。またカトマンドゥ近郊の山間部やミカの会が地震の支援をした学校付近は、まだガレキもそのままの所が沢山あった。訪ねた学校もベランタは崩れ落ち、あちこちひどい亀裂が入っていた。どれほどの学校が潰れ、どれ程の子どもたちが学ぶ場所をなくしたことかと心が痛んだ。

旅の中の半日、わがままを許していただきバクタプルの20年来の友人を訪ねた。2年前に伺った家は住めなくなり、郊外の一軒家を複数の家族で借りて住んでいたが、家族の無事を確認できてうれしかった。チャポラ寺院を始めとする世界遺産の建造物も、表の広場から眺めただけでは被害はあまり分からないが、一歩裏にまわると幾つもの寺院が土台だけを残して、すっかり崩れ去っていた。元の姿の大きな写真がそれぞれの脇に展示してあり、よけい痛ましかった。

昔、娘と歩いたランタンエリアの土砂崩れに襲われた或村は、今だに人も家も埋まったままということを知ると、本当に悲しくなる。公的な支援は僻地にはなかなか届かない。縁あって交流を続けてきたネパールに、ささやかであっても地震復興支援を続けていけたらと思う。

追伸として、ネパール入国前に初めて訪れたスリランカは、遠くて穏やかで緑多い国という印象で、機会があったらもう一度訪ねたい国になった。全員でシーギリヤロックに登れたことや平和寺で温かい歓迎を受けたこと等、ゴビンダさんのお蔭で心に残る旅になった。



【編集後記】

第18次教育支援の旅の報告書は別刷りとさせて頂きました。校正段階で熊本の地震が発生、まもなく1年を迎えるカトマンドゥの大地震の記憶が蘇りました。共に忍耐強く復興の歩み続ける事を祈ります。 S.K